

# 平成 28・29 年度人権教育研究指定校の実践

## 牧之原市菊川市学校組合立牧之原中学校

### ●研究テーマ

「自他を尊重し、互いに認め、高め合う生徒の育成

～一人一人がかけがえのない存在であることを自覚するとともに、

差別や偏見をなくし、自他の生命と人権を尊重し合う生徒を育てる。～」

### ●主な取組

(1) 校内研修テーマ「関わり合いで学びを深めよう」に沿った授業改善

- ①単元構想・授業構想を工夫し、つきたい力を明確にした授業づくり
- ②生徒同士が関わり合える場の設定
- ③個に確かな学力をつけさせるための振り返りの工夫
- ④特別支援教育の充実 等

(2) 基本的な生活習慣を身につけ自尊感情や自己有用感を高める生徒指導

- ①牧中3つの誇り（明るいあいさつ／心を合わせる合唱／心をみがく黙働清掃）の日常化
- ②人間関係づくりプログラムの実施
- ③学校全体・学級・委員会活動などで一人一人が活躍する場
- ④校内掲示による周知や価値付け 等

(3) 互いの良さを認め合い、一人一人の存在が生きる集団づくりを目指した特別活動

- ①5つの誓い文（お互いに認めあいます／相手のよいところを見つけます／相手の気持ちを考えます／ 勇気を持って話します／広い心で聞き入れます）の徹底
- ②地域産業の「お茶」に関わる学習・行事を通して、様々な関わりを体験
- ③全校生徒と職員が共に準備し、共に食事をする給食
- ④1・2年合同宿泊訓練
- ⑤保小中の連携（小学生への読み聞かせ、スポーツ祭での交流）

(4) 教職員および生徒への人権教育研修

- ①「人権啓発セミナー」の講義を実施
- ②中心授業を通じての人権教育の視点から見た校内研修 等



### ●成果

- ①授業、特別活動問わず生徒同士が関わり合える場を設定することにより、お互いの意見をしっかりと聞き、相手のことを理解しようとする生徒が増えてきた。
- ②小集団活動を取り入れることにより、グループの中では、自分の意見を筋道を立てて発表することができるようになった。
- ③仲間の活動に対して、自然と拍手をして称揚することができるようになった。
- ④集会等で、多くの生徒が全校の前で自分を表現する経験を積み、相手に自分の考えをしっかりと伝えることができるようになった。
- ⑤学校や学級の係に積極的に参加する生徒が増えてきた。
- ⑥異学年集団による縦割り活動で、上級生と下級生で活動することを通してお互いを認め合うことが増えてきた。
- ⑦生徒アンケートで「自他の大切さ」「人権の理解」など5つのすべての人権に関する観点において、十分当てはまる、当てはまると回答した生徒が8割以上になった。